

国保の三重苦

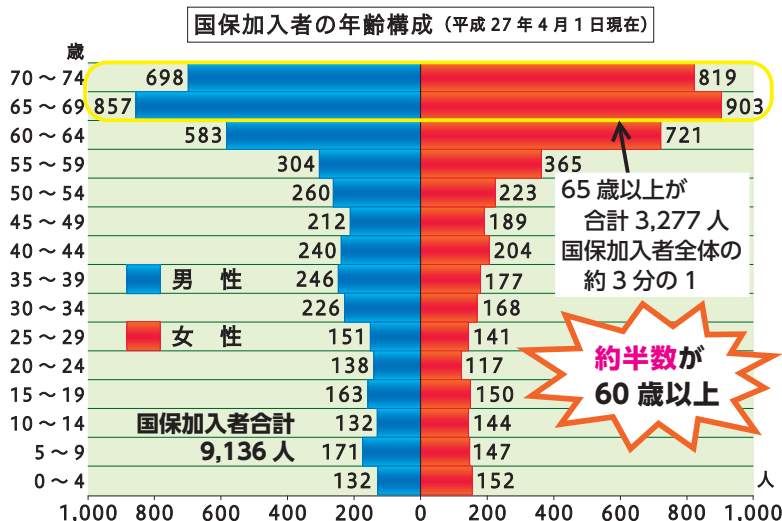
～高齢化、低収入、高医療費～

みんなで支えあう国民健康保険が今、新たな局面を迎えています。
シリーズ第2回目は、本町国保の財政悪化につながる間接的な要因についてお知らせします。

国保加入者の年齢構成

本町国保の年齢構成は若い世代が少なく、65歳以上の高齢者が多い「逆ピラミッド型」となっています。

平成27年4月1日現在、65歳以上の益城町国保加入者は、3,277人で全体の約3分の1を占めています。その理由は、団塊の世代の国保加入者が増えているためです。加入者の年齢が高齢化すると、医療費が増加します。医療費の増加や加入者の高齢化で本町国保の運営は年々厳しさを増しています。
(右図「国保加入者の年齢構成」参照)

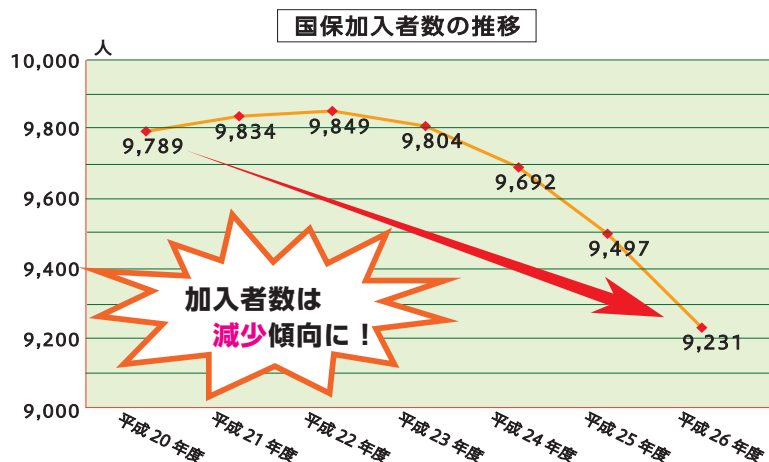


減り続ける国保加入者

本町国保の加入者数は年々減少しています。その主な原因は社会保険加入者の増加です。

社会保険に入れることができる人は比較的健康で若く、所得もある人が多いため、その人たちが国保を抜けると保険税の全体収納額が伸びず、国保加入者1人当たりの医療費が上がる原因にもなっています。

平成24年度に保険税の値上げを行いました。国保加入者は年金生活者やパート収入のみの人など比較所得が少ない人が多いため、医療費が増えているからといって、簡単に値上げできないのが実状です。
(右図「国保加入者数の推移」参照)



歯止めのかからない医療費の増加

国保加入者1人当たりの医療費は、加入者の年齢が高齢化すると増加します。本町の国保加入者の医療費も、60歳以上の人は、59歳以下の人と比べると高くなっています。

医療費の増加や加入者の高齢化で、本町国保の運営は年々厳しさを増しています。医療費の増加に歯止めをかけるためにも、まずは健診を定期的に受けていただき、病気を早期発見し、症状が軽いうちに治療していただくなど、加入者の皆様のご協力が必要です。
(右図「国保加入者1人当たりの医療費」参照)

